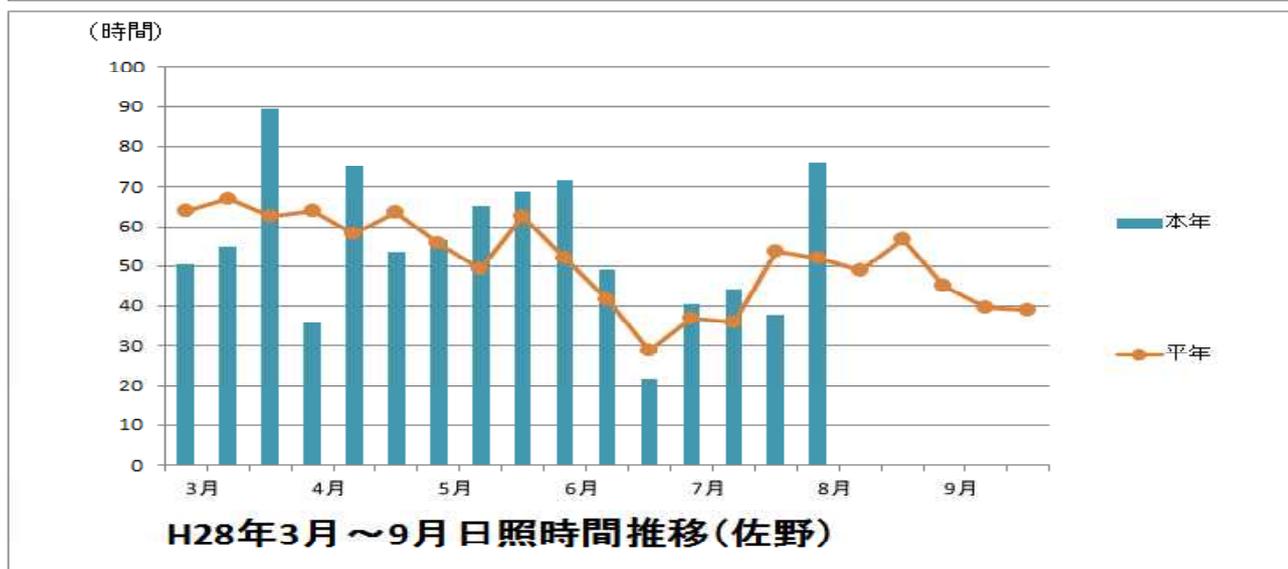
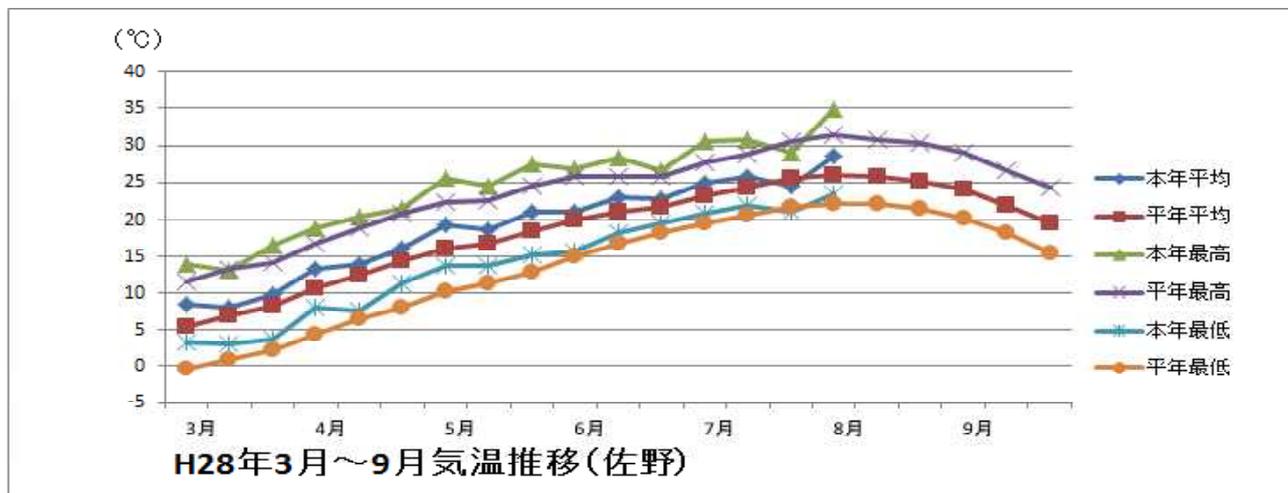


# 夏秋なす収穫後半に向けた栽培管理のポイント

平成 28 年 8 月

安足農業振興事務所

## 1. 気象経過



## 2. 気象予報（関東甲信地方） 気象庁発表

【関東甲信地方の季節予報】	
1ヶ月予報 (8/11発表)	<p>向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。</p> <p>【気温】 </p> <p>【降水量】 </p> <p>【日照時間】 </p>
3ヶ月予報 (7/25発表)	<p>8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。</p> <p>9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。</p> <p>10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。</p>

## 3. 生育経過

夏秋なすの生育は、定植後の高温、乾燥による活着の遅れがみられたが、6月5日の梅雨入り以降の降雨により、生育回復したものの、6月下旬の日照不足により生育の一時停滞がみられた。7月28日の梅雨明け前後の高温多日照により収穫量も増加したが、やや草勢低下したほ場が散見された。主枝の摘心の開始時期も平年並みからやや遅れがみられた。果実品質は、生育停滞、乾燥後の降雨等によりヘタ白果、ガク割れ果等の生理障害の発生が目立った。

また、病害虫については、うどんこ病が散見される他、害虫については、カメムシ類、オオタバコガの発生が目立ち、特に7月下旬以降、ハダニ類、アザミウマ類の発生が増加した。

## 4. 収穫後半の栽培管理のポイント

### (1) 枝・葉の管理

★ふところ部に光を入れ芽を活かすことができるように管理することがポイント！！

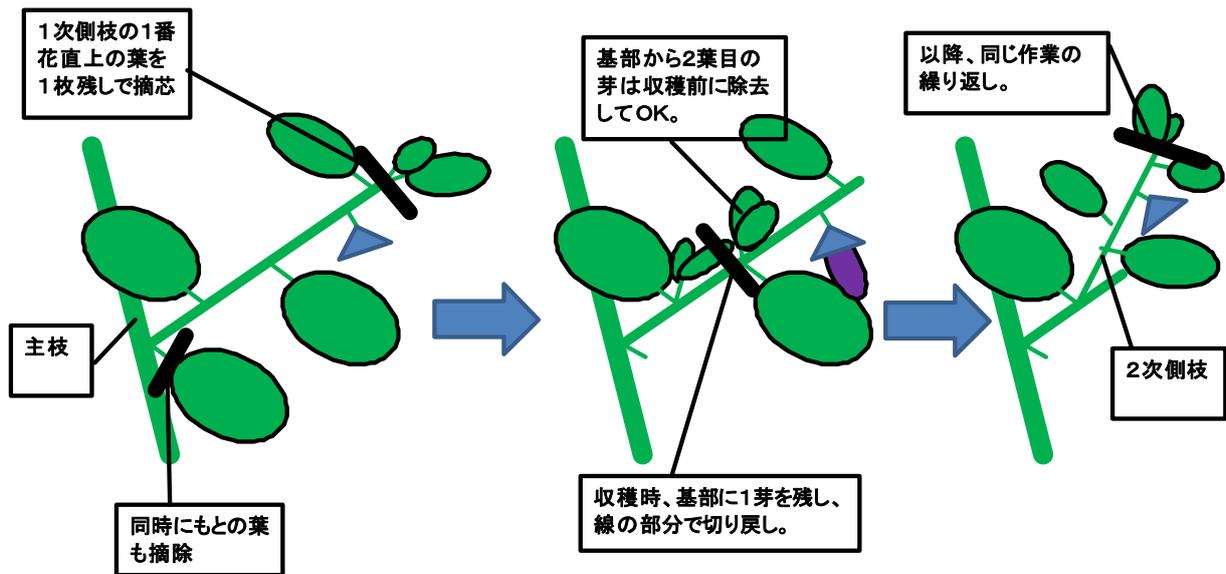
時期 項目	8～9月		
	上旬	中旬	下旬
管理作業	○従来の整枝剪定（摘心、切り戻し）作業を継続する。		
注意事項	○重なり合っている葉を中心に葉かきを行う。 ○ふところ部の風通しを良くし、うどんこ病の発生防止に努める。		

### (2) ふところ部の間引き剪定

お盆以降の生育は急に緩慢となるので、10月以降の収穫に向けた側枝の発生を促すため、V字誘引の谷をすり鉢状に枝を整理する。

- ・ふところ部の下垂する枝、混み合う側枝は間引きし、株元に木漏れ日を当てる。
- ・主枝から出る上部の側枝も花質を見て、開花位置の高い、細い側枝は次の花を待たずに主枝元まで間引き剪定する。

### (3) 切り戻し剪定法

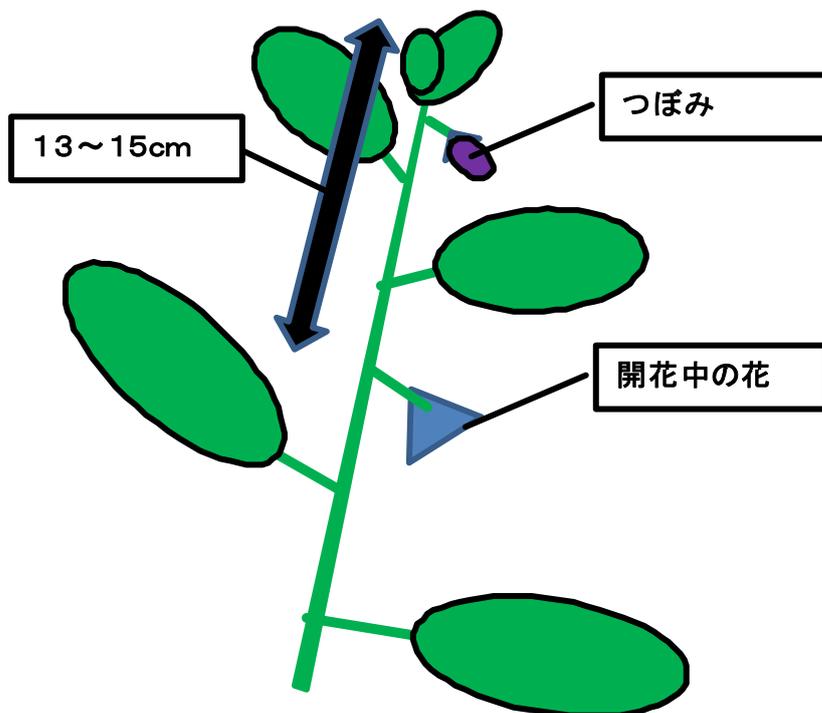


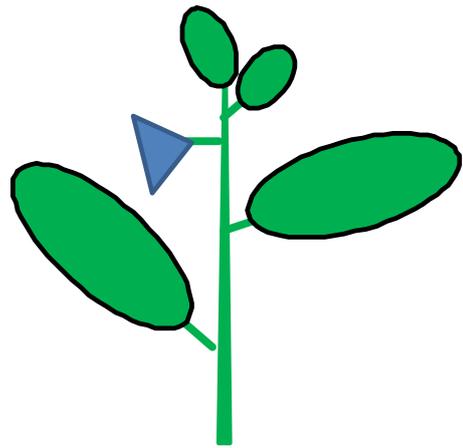
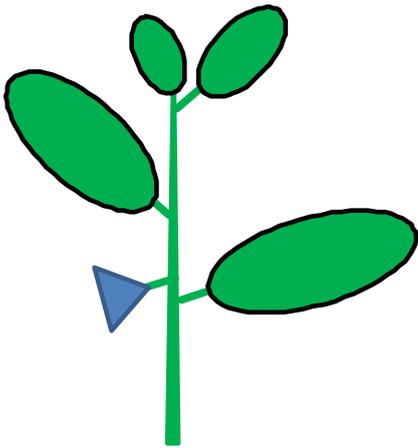
### (4) 草勢判断

草勢が弱くなってくると、花の色、柱頭の長さ、開花位置、形態の順で変化が現れるので、常に観察し、なすの樹からのサインを見逃さないように注意する。

#### ○開花位置による判断

- ・生長点から一番近い花までの距離と展開葉数が判断のポイント。
- ・距離はおおむね15cm程度で、展開葉数が4～5枚程度が草勢良好の目安。
- ・距離が短く、展開葉数も少なくなると草勢低下のサイン。
- ・長くなると草勢強、あるいは光線不足が考えられる。





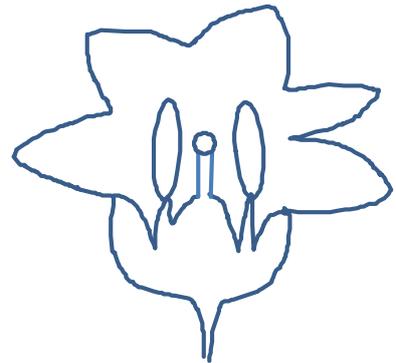
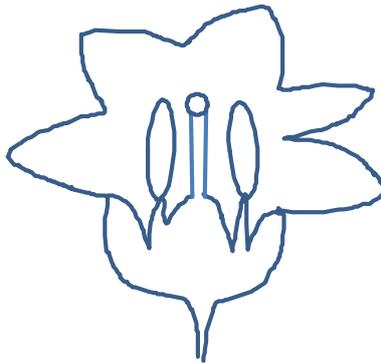
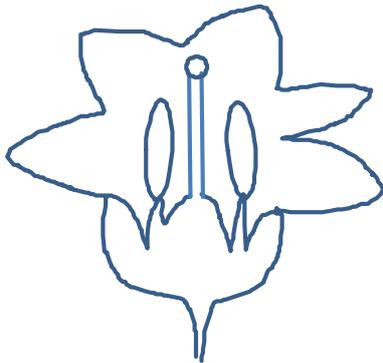
○栄養状態が低下し始めた時期の状態

- ・開会位置より上に2～3枚の展開葉がある。

○栄養状態不良の状態

- ・開会位置より上に1～2枚の展開葉しかない。

○柱頭の長さによる判断



○良好な状態

- ・長花柱花
- ・柱頭がやくの先端より長い。

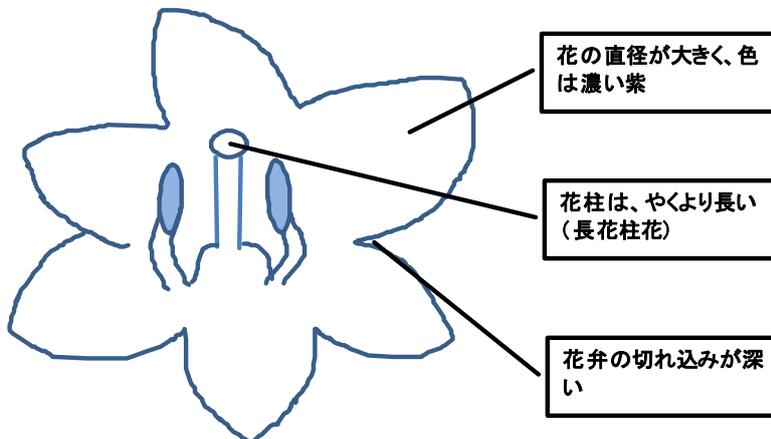
○やや不良な状態

- ・中花柱花
- ・柱頭がやくの先端と同じ長さ。

○不良な状態

- ・短花柱花
- ・柱頭がやくより短い。

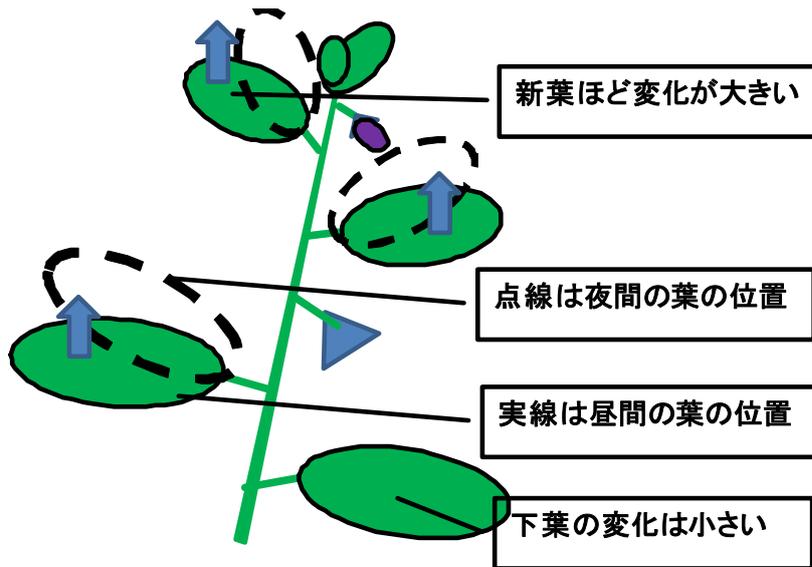
○開花している花の形態による判断



・理想的な花の状態。

・花の直径が小さく、花弁の切れ込みが少なく、花弁の色が淡い場合は、草勢低下している。

○葉の形態による判断



- ・生長点に近い葉は、草勢が良好な場合は、夕方～夜間になると立ち気味になる。
- ・根傷みや草勢低下の場合には、この変化が小さい。

(5) 追肥

◆時期別追肥の目安

8 月			9 月		
上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬
ペースト肥料 1 号を 10 a 当たり現物 30 kg × 2 回、または、I B 化成 S 1 号を 10 a 当たり現物 40 kg × 2 回			ペースト肥料 1 号を 10 a 当たり現物 30 kg × 2 回、または、磷硝安加里 1 号を 10 a 当たり現物 30 kg × 1 回 ★追肥は、原則として9月下旬を最終とし、10月以降は、生育状況により判断する。		

(6) 生育中盤の下葉黄化や成り疲れには、苦土の追肥実施

- ・うね間灌水後に硫酸マグネシウムを 10 a 当り 20 kg 通路に追肥する。
- ・速効的には、メリット M (Mg 1% 等) を 300 ~ 1000 倍に薄め、数回葉面散布する。

(7) 成り疲れ時に短期的には、アミノ酸系窒素の葉面散布の実施

- ・アミノ酸系葉面散布剤 (メリット青や葉友等) を薬散に併せて 7 日間隔で 3 回実施

(8) かん水

- ・水分が不足すると追肥の効果 (特に化成肥料を利用する場合) が遅れたり、つやなし果 (ぼけ果) の発生を助長するため、降雨がなくほ場が乾燥している場合は、積極的にかん水を行う。

## 5. 台風到来前後の対策

- ・主枝のマイカー線誘引を確認。併せて、果実を傷める葉の摘葉。
- ・台風到来前には早めでも収穫。到来後は腐敗病防除を必ず実施。
- ・傷んだ果実や落下した茎葉を、圃場外に持ち出し、腐敗病予防。

## 6. 病害虫防除

- ・農薬を散布する際は、必ずラベルをよく読み適正に使用する。
  - ・害虫対策は、ほ場周辺の雑草を除去するなど、耕種的防除も徹底する。
  - ・雷雨や台風などによる一時的な大雨があっても、ほ場が冠水しないように排水対策をとる。
- 農薬の適正使用（GAP点検シート2～10の一部抜粋）
- ・全ての農薬を鍵のかかる安全な場所に保管し、空容器も専用のポリバケツなどで保管
  - ・農薬の希釈はラベルの記載どおりとし、計量カップや台ばかりで正確に量る。
  - ・農薬散布後はタンクやホース内を必ず洗浄する
  - ・使用回数、収穫前日数など守られていることを、出荷日に防除履歴で確認する。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。  
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、  
技術対策情報が 携帯電話等に直接メール配信される  
**「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします！**

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される  
**「栃木県防災メール」のご登録をお願いします！**



↑「とちぎ農業防災メール」  
登録はこちらから



↑「栃木県防災メール」  
仮登録はこちらから